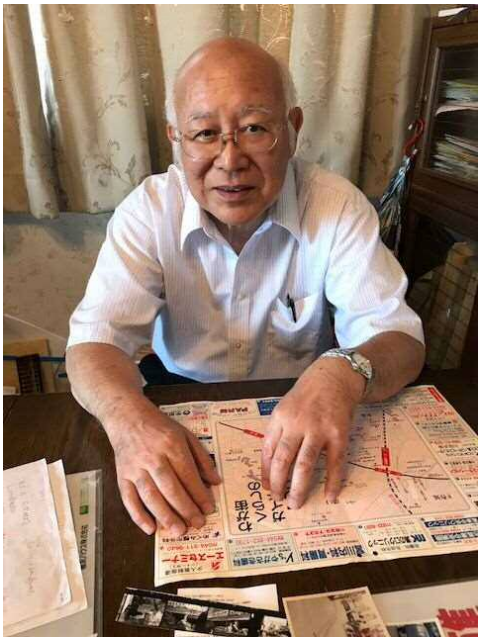
高津区おはなしアーカイブ

●境野　勝之（さかいの　かつゆき）さん

昭和１９年生まれ　７３歳
川崎市高津区溝口在住



◆小さい頃の様子は

生まれは、母の実家の牛込神楽坂です。着物や幕などの刺繍を扱う店を営んでいたと聞いています。その後、埼玉の親戚を頼って疎開しました。私の下には、弟と妹がいます。

父は溝口にあった自動車修理の中野工業に勤務していました。

幼稚園と小学校は洗足学園に通い、中学から大学までは日本大学です。

ここには昭和３９年から住んでいます。小学校６年生のときに、当時は地域の集合場所や宴会場でもあった亀屋会館のそばから、引っ越してきました。

◆どんな遊びを

まあ、遊ぶと言っても家業を手伝っていましたからねえ。大山街道沿いの近所の子どもとは遊ばず、洗足学園の友だちらとつるんでましたよ。今のマルイのあたりは昔は田んぼでね、エビや蟹釣りができたんですよ。スズメ捕りなんかもしたね。

久本神社周辺の小さな山のあたりに洞窟があって、防空壕遊びというか、中に入って化石の貝殻取りなんかしましたよ。今ではもう立ち入り禁止だと思いますがね。

家の前には川がありましたが、泳がなかったねえ。しかし、あるとき弟が自転車ごと落ちたことがあってね、びっくりしましたよ(笑)。当時は、自転車も貴重な時代でした。

亀ヶ谷君という同級生とよく遊びました。今でも１５名ほどの卒業生とのクラス会が駅前の居酒屋で続いています。

◆溝口の変遷

この溝口駅前は、大山街道とは違った雰囲気ですし、地元民というより、転居人が多く住んでます。土地を買って、家や店を建てた人たちの集まりとでも言いましょうか。現在、１代目から２代目の世代交代が進んでいます。

平成６年当時の地図

昔の駅周辺の地図も見ての通り、道は変わっていないのですが、美味しかった今川焼屋やパン屋の「多摩食」、図書館なども皆、無くなってしまいました。そして２０年前の１９９７年９月に「溝口ノクティプラザ」が建ちました。

２００７年の２月に溝口西口商店街の８店舗が焼失しましたが、小さな火災は以前にもありました。

子どもの頃の南武線の線路には、汽車が煙を吐きながら走ってましたよ。

セメント会社のセメントを運んでいたんです。汽車が通ると、我が家が揺れました(笑)。

あと、大井町線のホームの脇には池がありましたね。

◆町の靴屋として５０年

中野工業に勤務していた父はその後、高津の映画館があった通りに古着屋を開きました。そして私が４歳の頃に、父が以前皮問屋に勤めていた関係で、かつてあった旭ストアーに靴屋を開きました。旭ストアーは長屋のような店で、うちの靴屋を挟み、両隣りは菓子屋と洋品屋でした。旭ストアーとヤストモストアーは繁盛していました。

旭ストアーは、東急から立ち退きを迫られていたので、オリンピックの年の昭和３９年に現在のこのポレポレ通りに引っ越しました。昭和３３年に父がここの土地を買っていたのです。ここに、住居兼用の２階建で靴屋をオープンしました。

店の前が川でしたが、父はさっそく、その川に暗渠のような橋をかけてお客が来やすいようにしました。奉公人も埼玉の親戚筋から１人雇い、６２歳までここで働いてもらいました。１０年前のことです。

両親が商売をしていたし、親戚も特にいなかったから、盆暮れも無かったですね。正月だって、休むのは２日間くらいでしたよ。

５０年前から、靴というものは紳士靴、婦人靴、運動靴とこの３種類は基本的に変わりません。しかし、値段が変わりました。普通のサラリーマンの給与が１万円以下の頃に紳士靴は約３０００円、手作りで１万５０００円はしました。給与の中から靴を買うということはなかなか大変だったのです。手作りの靴は作るのに時間と手間がかかってました。１枚の皮から１足の靴を仕上げるのに、木型を使って、皮を縫う職人、皮を絞って形を整える職人など職人が複数いて、出来上がるまで３日間はかかりまし

た。大変な工程です。現在、昔のように丁寧な靴作りをしていたら、採算は合いませんね。中国製は安いし、昔は革製品だったのが今ではビニール素材の靴も出てきました。

ウォーキングブームで靴の持ち方も劇的に変わりましたね。ウォーキングシューズが爆発的に売れて、婦人靴のヒールのあるパンプスが全く売れなくなりました。日常はウォーキングシューズで歩き、冠婚葬祭用の靴が１足だけあれば良いという考え方ですよ。

靴業界も売れる靴しか作らないから、私の若い頃には売っていた、色々なデザインの靴は少なくなってしまいました。

また、靴底もウレタンソールが開発され、中敷もフワフワで厚手のものが出てきたので、足の裏の皮が柔らかくなるなど、人の足も変形してきましたね。昔は下駄を履いていたり靴底が硬かったりしたので足裏が丈夫でした。

足に関しては、長年の仕事で熟知してますから、お客からの相談もよく受けますしアドバイスもできます。

◆今、溝口に想うこと

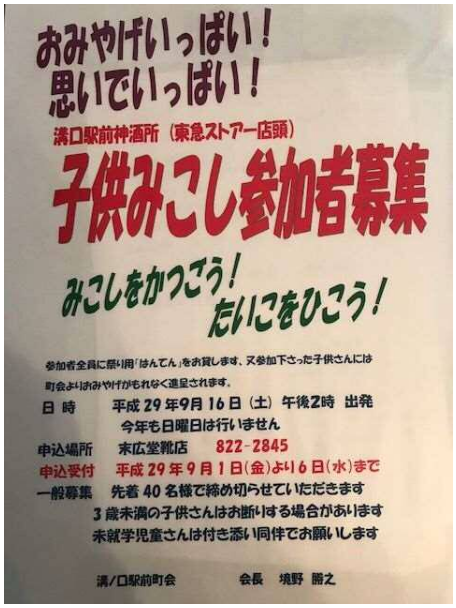
物価も安いし、交通の便も良く、渋谷や川崎に行きやすいので住みやすい町だと思います。でも古い住人がいなくなりつつありますね。昔からの歯医者などは健在ですが、商売人は少なくなり、この辺では、自分の靴屋と同じ通りのイタリアンレストランの２軒だけで、あとは皆テナントになってしまいました。

私もここに住んで約７０年ですが、会社勤めをしてないから、世間知らずなんて言われますよ(笑)。でもまあ、１０年以上前から、町会長をしてますが、携わっている毎年の夏祭りなどからも、住人が変わってきたと感じますねえ。

昔は、子どもの参加者が１０人くらいだったんですよ。

昭和５５年頃のお祭りの様子

それがね、どんどん増えて、ある年は１２０人くらい集まってしまい、大変でした。だから、現在は地元の子どもが４０人、他の地域の子どもが４０人と決めて、ポスターで募集するのです。これがね、１日で満員御礼になるから、すごいでしょ。きっと親たちも楽しみにしているんだよね。



長年、町会長をしていても、性格的に人前で話すのがどうも苦手な私ですが(笑)、靴屋の商売をしていて、客とのトラブルはあまり無いのですよ。昔は、顔なじみの客がいてね、南武線のホームから見えるうちの店に、「おーい、 靴売ってくれー！」なんてね、面白い人もいましたよ(笑)。

開店当時の２階建ての自宅兼店舗は、今は７階建てのビルになり靴屋を続けています。上の階には娘がいて一緒に暮らしています。

（平成２９年８月２４日取材）